

## 特集②

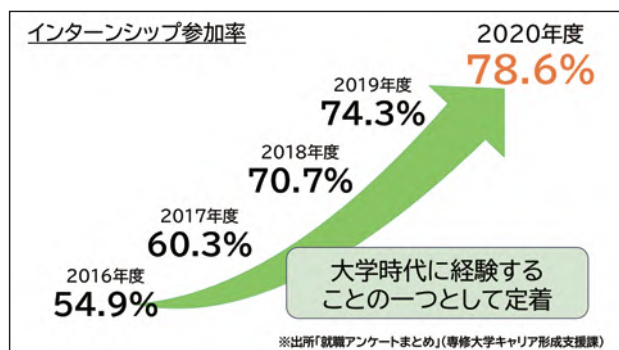
就業体験型インターンシップに参加した学生たちの体験談を紹介します。

# インターンシップ あれこれ 体験談



学生が企業などで実際に働く体験を通して、仕事への理解を深めるインターンシップは、就職活動に向けた準備といえます。企業や団体によって実施する内容も様々で、期間も1日単位のものから、数週間、あるいは数カ月にも及びます。近年はコロナ禍に対応し、オンラインでの実施も増えています。

インターンシップを通して学生は、自分がどのような業界や仕事に向いているのかなどを理解し、社会人としてのモラルやマナー、就職活動への心構えも身につけていくことになるのです。



↑キャリア形成支援課が毎年実施している『就職アンケート』では、民間企業に就職した2020年度の卒業生において78.6%の学生が参加したと回答。参加率は年々上昇しています。

## インターンシップに参加するには

学生は企業等が実施しているインターンシップに個人で申し込むことができますが、企業によって直接応募できるものと、大学経由での応募が必要なものがあります。

大学経由での応募の場合、応募書類をキャリア形成支援課に提出する必要があります。なお企業等から大学に届いたインターンシップ情報は、キャリア形成支援課で閲覧できます。

そのほかキャリア形成支援課では、専修大学と提携した市役所・区役所、都市銀行・信用金庫、商社、サービス業、NPOなどでの就業体験型インターンシップを用意しています。このインターンシップでは、社会人としての心構えやビジネスマナーを学ぶ「事前プログラム」と、インターンシップを振り返る「事後プログラム」の受講が必須となっています。

### キャリア形成支援課が提供する就業体験型インターンシップ

**種類** 企業・行政・NPO インターンシップ、農業インターンシップ、海外インターンシップ、中長期インターンシップ、外国人留学生インターンシップ、川崎インターンシップ、道の駅インターンシップ

**時期** 夏期(5月、募集説明会→6~7月、選考→夏期休暇中、インターンシップ実習)  
春期(11月、募集説明会→11~12月、選考→春期休暇中、インターンシップ実習)

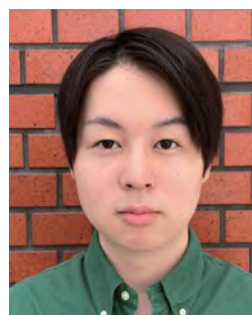
体験談①  
中長期インターンシップ

長期（1カ月以上）にわたる業務を経験することで、仕事への理解を深め、より高い能力の獲得を目指すインターンシップ。

# 1年間のインターンシップで、多岐にわたる業務を経験中

受入先：三谷産業株式会社  
期間：1年間（2020年3月～2021年3月）

商学部マーケティング学科2年  
藤田佳希



## インターンシップに参加するまで

参加動機としては「社会人になる・就職するとは何か?」という素朴な疑問の答えを探したかったこと、また、企業の雰囲気を知ることや自己の適性に気づく機会が必要であり、社会人として必要なビジネスマナーや知識を身につけたかったことがありました。

1 day のインターンシップでは、企業の雰囲気を理解するには不十分と考え、なるべく長期間を希望し、大学が提携している企業でのインターンシップの募集を頻繁に確認し、中長期インターンシップ（約1年）に参加しました。

漠然とメーカーや商社を志望していた私にとって、三谷産業株式会社様は求める条件に近かったので、応募させていただきました。準備したものはスーツ、履歴書やES（エントリーシート）です。コロナ禍により入学式がなかったため、当時、私はスーツさえ持っていませんでした。

履歴書やESは自分なりに何度も文章を推敲した後、キャリア形成支援課に提出し、受入先企業に提出する前に確認していただきました。複数回のWEB面談を通して、丁寧に指導していただけたおかげで自信ができました。

## インターンシップで何をしたのか

はじめは郵便関係、書類整理といった仕事が多く、現在では社員の方と打ち合わせしながら、議事録などの資料作成等も行っていきます。

私が所属している部署は、会社の色々な部署から依頼をいただき、社員の方のニーズを解決することによって成り立っています。自分では想像していなかったような多岐にわたる業務に携わる機会があります。インターンシップに参加するまではおぼろげにしか理

解していなかった企業活動について、どのように利益を生み出し、社会貢献を行っているかなど、理解を深めることができていると思います。

依頼された仕事を完了する際に、社員の方には仕事の達成度や満足度に関するアンケートを書いています。社員の方に確認を取りながら、自分なりに工夫した仕事に対し、「想像以上の出来」という回答をいただいたときはとても嬉しく感じました。

一つ一つの業務に対し、フィードバックを受けることで、より適切な行動が可能になっていると思います。

## インターンシップで得たこと、就職活動に活かせること

自分がインターンシップを通して、一番大切だと感じたものは、素直にしっかりと人の話を聞くことです。

大学では先生方を除き、基本的には気が合う同年代の人と話をすることが多く、話が合わない人とはあまり話していませんでした。気の合う友人との会話の場合、基本的な考え方が似ているため、多くを語らなくともスムーズに意思の疎通ができます。

しかしながら会社には、価値観や年代も含め、多



↑職場での様子

種多様な人がいます。社員の方から依頼をいただき、それを達成する経験から、自分の当たり前や常識で判断するのではなく、しっかり相手の要望を正確に理解することが重要であると考えています。

指示された内容だけでなく、相手が必要とするものを考えて提案し、用意する経験は主体性や責任感を培うことに繋がっていると思います。

インターンシップの参加動機だった「社会人になる・就職する」ということに対する一つの答えは、「会社

を通して、社会に貢献する一員になること」と考えています。

インターンシップに参加する前は、企業がどのようなことを行っているか具体的に想像することができていませんでした。また、企業の雰囲気は実際に体験しなければ知ることができません。

将来、社会で働く自己を想像するにあたり、中長期インターンシップはとても有意義であると感じています。

## 体験談② 海外インターンシップ

海外の企業などで就業体験を行う。海外のビジネスの現場を実際に体験することによって、働き方や文化の違いを知ることができる。

# ベトナム企業をオンライン訪問、 行動力を磨く

受入先：株式会社三進インターナショナル  
期間：2週間（2021年2月22日～3月5日、  
そのうち実習は3月1日～5日）

文学部英語英米文学科3年  
岩山美咲



## 焦りを感じ、インターンシップに参加

私は春期海外オンラインインターンシップに参加しました。受け入れていただいたのは、株式会社三進インターナショナル様でした。準備期間を含めおよそ2週間、お世話になりました。

はじめにインターンシップに参加するまでの経緯をお伝えします。私がこのインターンシップに応募した第一のきっかけは焦りでした。これから3年次になるというにもかかわらず、就職活動に関しては何もしていないどころか、何から始めればいいのかすらわからず、焦燥感を感じていました。

何かしようと決意し、とりあえず専修大学のホームページで大学からのお知らせを見ました。そこで、専修大学ではインターンシップがいくつか開催されていることを知りました。そして、コロナウイルスの影響で長年望んでいた海外留学を断念することになった私の目に飛び込んできたのは、「海外オンラインインターンシップ」の文字でした。

どうにもできないことを悩んで落ち込んでいても、せつかくの大学生でいられる時間がもったいないと思い、すぐさま応募しました。応募フォームには志望動

機やどのようなことを学びたいかなどを記入しました。

無事に選考を通過し、参加に至りました。応募の際、自分自身の思いを言語化したことで、混沌としていた頭の中を整理することができました。応募フォームを入力し終えたときには、行動に移してよかったと思った記憶があります。

## 就活の基本を学び、 ベトナム企業を訪問

次に、インターンシップで経験したことについてお伝えします。

まずはじめの1週間で、担当スタッフから就職活動や社会のマナーについて学びました。具体的には、就職活動において気をつけるべきことや就職活動に取り組むスタンス、企業の調べ方、就職活動の大まかなスケジュール、エントリーシートの書き方など、大きなことから小さなことまで教えていただきました。

また、数回にわたって様々なテーマでディスカッションを行い、採用試験に向けた練習をしました。社会のマナーについては、メールの書き方、敬語の使い方、企業訪問における話を聞く姿勢などを学びました。



↑プレゼンテーションのために作ったホワイトボードアニメーションのワンシーン

→一緒に切磋琢磨した学生、そしてお世話になった三進ベトナムの皆さまと記念撮影



次の1週間は、前週にインプットしたことを踏まえてアウトプットを行いました。具体的には、三進ベトナム株式会社様と、ベトナムで起業された Vietnam Glass Craft Production Co., Ltd 様にオンラインで企業訪問をしました。ほとんどの会話は日本語でしたが、4日目にベトナムの現地の学生と英語で会話する機会を設けていただきました。

5日目の最終日には、インターンシップで学んだことについてプレゼンテーションを行い、全体の振り返りをして自分にどのような力がついたのか確認しました。

## 言われたこと以上を目指す

最後に、インターンシップで得たことについてです。

身についた力はいろいろありますが、いちばんに実感したのは行動力です。私はこのインターンシップ期間において、「言われたこと以上のことをする」ということを常に意識しました。言われたことだけをやっていては、周りとの差をつけることができないからです。

この力が身についたと実感したのは、最終日のプレゼンテーションのときです。プレゼンテーションといえば、パワーポイントのスライドを使うのが一般的ですが、私は差別化のためにホワイトボードアニメーションという手法を用いました。

限られた時間の中で完成度を高めるのは非常に難しかったのですが、プレゼンテーションをご覧いただいた方から良い反応やお褒めの言葉をいただけたのは嬉しかったです。

## 体験談③

企業・行政機関・NPO インターンシップ

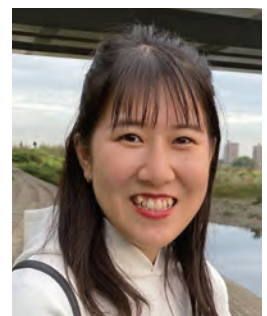
企業・行政機関・NPO の現場で短期または長期で就業体験を行う。内容は実務経験やグループワークなど受入先によって様々。

# イベント「SDGsよこはまCITY」の企画運営で自信を得る

受入先：特定非営利活動法人横浜 NGO ネットワーク  
期間：7カ月間（2020年8月～2021年2月）

経済学部国際経済学科4年

中村あかね



## 参加のきっかけは専大ホームページ

3年次の夏、将来のキャリアを考え始める頃、様々な企業のインターンを探しているなかで専修大学ホームページにある在学生ツールのお知らせからインターンシップの募集を見つけたことがNPO インターンシ

ップに応募するきっかけでした。

もともと私はボランティアに興味がありました。また大学の授業で国際経済に関する講義を受け、国際協力や貧困などに関心がありました。そうしたことから、国際協力活動を広めるために設立され、イベントの企画や運営、国際ボランティア講座などを行ってい



↑企画案話し合い



↑取材動画の編集



↑OBの方への取材

る特定非営利活動法人横浜 NGO ネットワーク様でのインターンシップに参加を決めました。

参加を決めてからは、作成したエントリーシートを元にキャリア形成支援課の方や、仲介をしていただいたNPO 法人アクションポートの方とのやりとりを進めました。その後、受入先の横浜 NGO ネットワークの担当の方と Zoom で面接をしました。

面接に合格した後は、同じくこのインターンシップに参加する他大学の学生達と Zoom 上で交流し、インターンシップに参加する目標設定のためのグループワークを行いました。

そのほか、受け入れ団体の方々とのお見合い会（受入先との相談会）や事前研修会もあり、万全の状態でインターンシップに挑めたと思います。

例年、このインターンシップでは「よこはま国際フェスタ」に取り組むことになります。世界各国の食事や、フェアトレード品が販売され、各国の民族舞踊や音楽も楽しめる、神奈川最大級の国際協力・多文化共生のイベントです。

しかし、今年度はコロナ禍のため有観客のイベントは中止となり、初の試みとして「SDGs よこはま CITY」と題したオンラインイベントが開催されることになりました。

私たちは、このイベントのプログラムの1つを任せられました。みんなで話し合いを重ねた結果、テーマは「私たちが参加することで世界を変えよう～大学生が取材を通して考えるジェンダー課題とは～」に決まりました。

SDGs についてより多くの人に知ってもらうために現代の日本社会で生きる人たちにインタビューを行い、世界を変えようとするきっかけとなるような取材動画を制作しました。

企画の提案から取材、アポ取り、動画編集、当日の配信のナレーションなどは、全て自分たちで行いました。2月の開催だったので本番に向けて準備を行いながら、よこはま C プラット事務局様との会議や横浜

市役所様との会議に参加したり、ポスターを作成したり、イベントの宣伝活動としてインスタグラムのアカウントを開設し投稿するなど、活動していきました。

初のオンライン開催となり、環境が整っていない中で活動に戸惑うことも多かったのですが、自分たちが考えた企画が実現したことの達成感、今まで味わったことのないほど大きなものでした。

このインターンシップで身につけた主体性や、様々な方と交流したことで身についたビジネスマナー、価値観の広がり、就職活動を行っていく上での強みになったと思います。何よりも一つのことを最後まで全力で成し遂げた経験は、自分の自信にも繋がりました。

取材を通して国際ウィメン日本協会よこはま様から貴重なお話を聞くことができ、横浜 NGO ネットワークのインターン OB の方とも交流ができ、本当に貴重な経験をえました。また、イベントを企画する上で自分の理想や妄想だけではなく、費用や設備などの現実的な面もしっかりと考慮しなければならないことを学びました。

インターンシップに参加した学生同士の会話や団体の方との雑談などを通し、興味深いお話をたくさん聞いたのもとても楽しかったです。

他のインターンシップとは、一味違った経験ができる、とても有意義なインターンシップだったと思います。



↑オンラインイベント当日